

「創造都市・浜松」 推進のための基本方針

創造



浜松市
HAMAMATSU CITY

目次

1	はじめに	2
2	基本方針の策定趣旨	2
3	創造都市とは	2
4	創造都市が求められる背景	3
5	浜松市の現状	4
	(1)浜松市に求められていること	4
	(2)浜松市のポテンシャル(潜在能力)	4
	(3)創造性を源泉とする浜松市の強み	5
6	浜松市が目指す創造都市の姿	7
	(1)浜松市総合計画に掲げる都市の将来像	7
	(2)イメージする都市の姿	7
	(3)具体的な状態	8
7	創造都市へのプロセス	9
8	取り組みの方向性	10
9	浜松市を創造都市へと牽引するプロジェクト	11
	(1)新たな発想を喚起する創造空間の演出	11
	(2)創造性あふれる市民活動の促進	11
	(3)魅力ある地域資源の活用	13
	(4)「浜松のものづくり」を原点とした創造文化産業の創出	14
	(5)創造都市ネットワークを軸とした発信・交流・連携	15
10	推進体制	17
11	用語解説	18

1 はじめに

浜松市は世界に誇る多くの起業家や産業技術を創出してきた創造都市です。地域の人々が多様な伝統文化を受け継ぎ、人材や技術の集積を活かしたまちづくりに取り組み、「ものづくりのまち」「音楽のまち」として発展してきました。

昨今は、これまでの文化芸術を活かしたまちづくりが評価され、平成 23 年度※文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)を受賞したほか、平成 23 年 3 月に※ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の創造都市ネットワークの音楽分野に加盟申請を行い、音楽がもたらす※ヒューマニズムのネットワークを通じた、文化的多様性の実現と世界平和への積極的な貢献に向けて歩み始めています。

浜松市が持続的に発展し、市民にとって誇りうる都市としてありつづけるために、世界をリードする産業・文化とそれらを支える市民が持つ経験と実績をもとに、浜松市は「創造都市・浜松」への取り組みを引き続き進めていきます。

2 基本方針の策定趣旨

浜松市は、第 1 次※浜松市総合計画(平成 19 年度～)から、都市の将来像に「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を掲げています。

本方針は、創造都市の意義を明確にするとともに、本市が有する創造性を源泉とする事象を挙げながら、目指す創造都市の姿や実現のための取り組みイメージを示すものです。

本方針が市民に対して、浜松市の有する創造性への気づきを促し、創造的な活動を活発化させるためのエンジンとなることを期待して策定します。

3 創造都市とは

創造都市とは、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく都市のことを言います。

創造都市では、芸術家やデザイナーなど創造的な仕事に携わる人材を中心とした様々な市民の“創造性”によって産業の発展を促すとともに、環境、教育、福祉などの問題解決を図っていく取り組みが展開されています。

4 創造都市が求められる背景

これからの都市づくりにおいては、地域の独自性や良さを活かし、持続発展的なまちづくりを進める必要があります。地域の様々なものやことの中から、価値ある資源を見極め、その資源によって新しい可能性を模索していくことがこれからの都市に求められています。

また、人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、社会経済環境は目まぐるしく変化し、都市が抱える課題も一層多様化しています。こうした社会においては、柔軟な発想や考え方をもち、課題に対してあらゆる側面から解決を図っていく必要があります。

創造都市は、そうした求めや課題に対して、“創造性”をもって対処していこうという理念を持つ都市であり、そのアプローチが様々なジャンルの交流を促進し、創造的な人材の育成や集積、新たな産業の創出、地域の教育や福祉への貢献、市民活動の活性化など多方面への波及を通じて暮らしの豊かさを高めていくことから、今後の都市のあり方として注目を集めています。

“創造性”を源泉とする活動といえは、アートや文化のジャンルが代表例に挙げられます。それは、アートや文化それ自体が魅力あるものとして人々を惹きつけ、人と人のコミュニケーションを活発化させる力を持っており、人々が多様な文化表現を通じて心の豊かさを育み、柔軟な発想を生むことにつながるからです。

しかし、“創造性”はアートや文化に限られるものではありません。日常生活における料理やショッピング、音楽・演劇鑑賞、スポーツさらには本市の代表産業である“ものづくり”といった活動も“創造性”を源泉としており、日々の生活自体が柔軟な発想に基づく活動の繰り返しです。

創造都市を目指すことは、人々がそのこと(身近な“創造性”)に気づき、様々な場面で“創造性”を発揮するまちづくりを進めることであり、都市・人の両方の成長と魅力の向上、暮らしの豊かさを高めていくことにつながっていきます。

このような観点から、国内外の諸都市では、創造都市の理念を基にした様々な取り組みが実践されており、中には“創造性”をキーワードに、産業の衰退や人口減少等の深刻な都市的課題を克服、再生し、魅力を高めている都市もあります。

本市としても、*市民協働で「創造都市・浜松」の実現に取り組み、魅力ある都市づくりを進めていきます。

5 浜松市の現状

創造都市の基本方針の策定に当たって、浜松市を取り巻く状況を整理します。

(1) 浜松市に求められていること

これからのまちづくりに求められることとして、以下の項目が挙げられます。

- 持続発展的な魅力あるまちづくり
- ライフスタイルの変化・多様化に対応した柔軟な都市経営
- 市民協働によるまちづくり
- 市民活動団体等の活発な活動、活動の場の拡大
- 市民の都市に対する誇り・愛着の醸成
- 都市の課題を解決する地域力の向上
- 地域文化の振興、歴史・伝統芸能の継承
- 既存産業・技術の継承と新産業の集積
- 技術開発競争のグローバル化に対する産業・商品の高^{*}付加価値化
- ^{*}自然共生社会・^{*}循環型社会の構築

(2) 浜松市のポテンシャル（潜在能力）

これからのまちづくりに活かすことができる浜松市のポテンシャルとして、以下の項目が挙げられます。

- 歴史的・伝統的文化資源の蓄積と多様性
- ものづくり産業や音楽文化が有する世界性
- 高度な産業技術を生み出した地域独自のものづくり文化
- ものづくり文化がもたらす職人的技能や感性
- 外国人市民が持つ多様な文化
- やらまいか精神に代表される、好奇心が強く、開放的な市民性
- 様々な分野における市民活動の高まり
- 地域文化や歴史に関心を持つ市民の増加
- 文化活動団体のまとまり
- 高い自治会加入率にみられる地域コミュニティの形成
- 情報通信網を活かした人・活動のネットワークの広がり
- 企業・NPO・教育機関等の連携
- 森林、川、湖などの恵まれた豊かな自然環境
- 特色ある豊かな食文化

(3) 創造性を源泉とする浜松市の強み

創造都市を推進していく上で、浜松市の強みとして掘りどころとなる、創造性を源泉とする事象は以下の項目と考えます。

①市民性

浜松市は、「*やらまいか精神」と称される何事にも前向きに取り組む市民風土を背景に、新しい“もの”や“こと”に挑戦し多くの起業家を輩出してきました。また、開放的な市民性を併せ持ち、多様な文化や人、新しい考え方を柔軟かつ寛容に受け入れながら都市を発展させてきました。

こうした市民性は、人材の交流促進のほか、創造都市の考え方を市民に広めていく上で大きなアドバンテージであると考えられます。

②ものづくり

浜松市は、地域の人材と資源を活用した内発的発展としてのものづくり産業の集積が好循環を生み、繊維産業、楽器産業の発達を経て、オートバイ・自動車産業、*光・電子技術関連産業へと発展を遂げてきました。

ものづくりは、製品・商品に限らず、発想や文化、ネットワークといった点においても新たな価値を創出する創造的な活動です。

浜松市においては、楽器産業の振興が音楽文化の醸成へと結びついているほか、世界的な企業の輩出が国際交流の促進につながっており、今後も新たな文化や産業を創出する原動力として期待されます。

③音楽をはじめとした文化

浜松市は、20 世紀以降の楽器産業の集積を活かして、音楽のまちづくりに取り組んできました。

音楽は古の時代から、人々の暮らしと密接に結びつき、生活に豊かさや潤い、調和、ヒューマニズムなどをもたらしています。世界共通の言語である音楽は、あらゆる文化や人々をつなぎ、新たな価値観を創出する創造の源泉になります。

また、本市の文化は音楽以外にも、広範な市域に点在する多彩な伝統文化や花・緑、食など様々に存在するほか、近年では書道や映画製作といった新たなジャンルへも広がりを見せています。そうした文化を活かした多様な活動が創造都市を形づくり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていきます。

④多文化共生

浜松市では、地域に暮らす外国人市民は地域経済を支える大きな力であると捉え、まちづくりを進める重要なパートナーとの認識のもと、積極的に※多文化共生施策を推進してきました。

多様な文化的背景を持つ外国人市民と多様な文化を理解する日本人市民が共に暮らし、交流することは、互いを刺激し合い、新たな文化を生み出すことにつながり、創造都市の実現に寄与する重要な資源になると考えられます。



6 浜松市が目指す創造都市の姿

(1) 浜松市総合計画に掲げる都市の将来像

第2次浜松市総合計画(平成23年度～)では、都市の将来像に「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を掲げ、実現に向けた3つの視点を示しています。

～「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」～

新しい“もの”や“こと”を創り出してきたこれまでの実績を活かし、お互いの信頼と協調の関係によって、心豊かで創造性があふれる市民が集い、新しい価値が絶え間なく生まれ育つ創造都市を目指します。

将来像実現に向けた3つの視点 創造性豊かな“ひと”“もの”“文化”一

- 人材の創造 心豊かで創造性があふれる市民が集い主体的に行動する都市
- 産業の創造 *イノベーションに果敢に挑戦し新たな技術、人材、産業が生まれる都市
- 文化の創造 市民が主体となって文化を創造し発展させていく都市



(2) イメージする都市の姿

市民協働で創造都市を築いていくためには、市民、市民活動団体、経済界、大学、行政などが目指すべき姿やイメージを共有するとともに、本市固有の創造性の源泉を大切にしながら、本市に適した創造都市を目指していくことが大切です。

本方針では、イメージする都市の姿を以下のように想定します。



➢浜松のものづくりや音楽、多文化共生などの根底にある“やらまいか精神”
“柔軟で寛容な市民性”が、まちづくりや暮らしに広く活かされていく

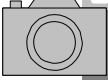
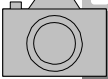
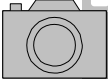
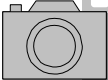

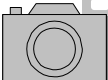
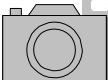
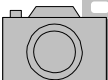
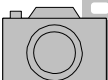
➢市民が常に新しい試みにチャレンジし、次々と新しい価値を生み出していく

➢創造的な人材や企業が集積し、日常空間を創造空間(魅力的な都市空間)に変え、市民の暮らしに刺激を与えていく

(3) 具体的な状態

イメージする都市の姿を具体化した状態を示します。

創造都市が実現に近づくとつれ、以下に示すような動きや光景が市内で繰り広げられると考えられます。

-  >市民が様々な物事にチャレンジしたり、トライできる機会や場がある
-  >様々なジャンルの人が集まり、創造性を刺激する*サロンの交流空間がある
-  >*アーティストや*クリエイターが浜松に活動拠点をもち、まちづくり、市民活動、*創造産業に深くかかわっている
-  >地域特有の文化が反映された取り組みやイベントが各所で行われ、大勢の人々が集まってくる
-  >多様な文化や価値観、知識を持った人々が行き来し、情報や活動の交流が行われている
-  >既存の概念や価値観にとらわれず、新たな観点で物事を考える意識が市民に浸透している
-  >歴史の面影を残す建物や史跡が活用され、地域活性化に結びついている
-  >浜松の地から新たな産業や製品、ムーブメント(話題やブーム)が創出されている
-  >浜松を連想させ、市民が誇りに感じる魅力や*アイデンティティが高まっている

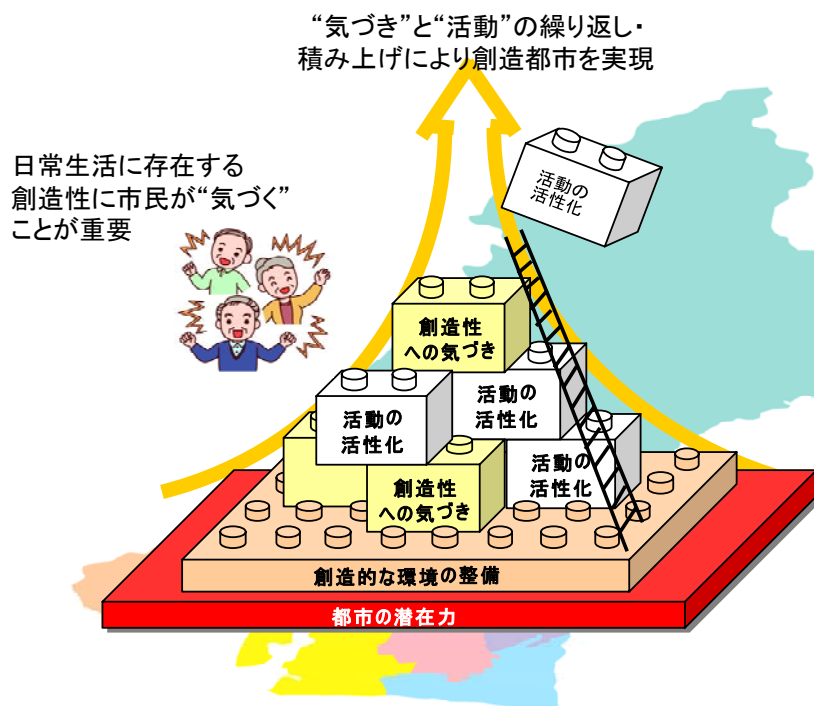
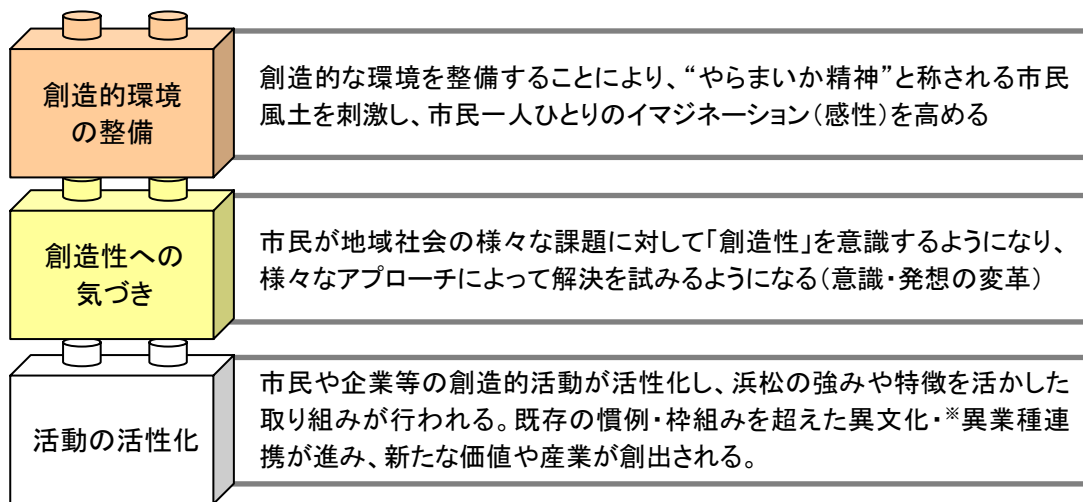
7 創造都市へのプロセス

創造都市の推進に当たっては、市民一人ひとりが創造性を意識して行動することが重要です。

「創造都市が求められる背景」の章で述べたように、日常生活における料理やショッピングといった普段の行為も創造性を源泉とする活動であり、日々の生活自体が創造的な発想と活動によって成り立っています。

本市では、市民がそのこと(身近な創造性)に“気づき”、様々な場面において創造性を意識しながら“活動”していくような環境の整備に取り組みます。

そして、“気づき”と“活動”の繰り返しを通じて、市民や企業等の活動の活発化を促し、新たな価値や産業が生まれる創造都市を目指します。



8 取り組みの方向性

将来像実現に向けた3つの視点と創造都市へのプロセスを踏まえ、市民協働、創造性を源泉とする浜松市の強み、創造都市ネットワークの活用などの観点から、5つの柱を設定して取り組みを展開します。

【5つの柱】

- (1) 新たな発想を喚起する創造空間の演出
- (2) 創造性あふれる市民活動の促進
- (3) 魅力ある地域資源の活用
- (4) 「浜松のものづくり」を原点とした創造産業の創出
- (5) 創造都市ネットワークを軸とした発信・交流・連携

具体的な取り組みについては、“浜松市を創造都市へと牽引するプロジェクト”として次章に記載します。

なお、本方針では、創造都市・浜松に対するイメージを深めるため、浜松市を創造都市へ牽引していくと考えられる取り組みを例示します。

取り組みの展開に当たっては、平成25・26年度をファーストステージ、平成27年度以降をセカンドステージと位置付け、段階的に進めます。

ファーストステージでは、既存の取り組みを軸にしながら新たな取り組みの試行・検証を行い、本市における適性を見極めます。

続いてセカンドステージにおいては、本市を取り巻く環境の変化や創造都市の進展具合を踏まえて取り組みを整理し、戦略的に展開します。

9 浜松市を創造都市へと牽引するプロジェクト

浜松市を創造都市へと牽引していくと考えられる取り組みについて、先述の5つの柱をもとに例示します。

(1) 新たな発想を喚起する創造空間の演出

①創造性を高めるイベントの実施

《想定される取り組み》

- 1) アートイベントやアートコンテストの開催
- 2) ストリートイベントの開催(*やらまいかミュージックフェスティバル、*プロムナードコンサート等)
- 3) 国際規模の音楽祭の開催(*浜松国際ピアノコンクール、*静岡国際オペラコンクール等の開催)
- 4) まちなか公共空間利活用制度の運用(創造拠点地区の形成)

②アーティスト・クリエイターが活動しやすい環境づくり

《想定される取り組み》

- 1) 活動施設・場所の提供
- 2) *アーティスト・イン・レジデンス事業の実施
- 3) *鴨江別館を活用したアートセンター機能の充実
- 4) 廃工場や空きビル等既存施設の*リノベーションや*コンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり

(2) 創造性あふれる市民活動の促進

①活動の機会・場の提供

《想定される取り組み》

- 1) 様々なイベント等における活動・発表の機会・場の提供
- 2) 既存の組織・枠組や施設を活用した活動の展開
- 3) 都心における歩行者の回遊性の確保
- 4) 【再掲(1)-②-3】鴨江別館を活用したアートセンター機能の充実
- 5) 【再掲(1)-②-4】廃工場や空きビル等既存施設の*リノベーションや*コンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり
- 6) 創造的な活動の展開を視野に入れた新美術館の整備

②創造都市を支えるサポーターの育成

《想定される取り組み》

- 1) 創造的な活動への市民参加を促進する情報の発信
- 2) 市内外の文化交流の促進
- 3) 創造的な活動への参加を通じた*市民ディレクターの育成
- 4) アーティスト・クリエイターによる人材育成講座の開催
- 5) *学術研究機関における担い手育成の実施
- 6) 研究者による研究活動の実施

③創造的活動を支援する制度の創設

《想定される取り組み》

- 1) *みんなのはままつ創造プロジェクトの実施
- 2) *地域力向上事業の実施
- 3) 上記2事業を後継する支援制度の検討
- 4) アーティストバンク(アーティスト登録制度)を活用した学校・地域活動への人材派遣
- 5) *アーツカウンシル機能の検討

④人と人、活動と活動をつなぐ*コーディネート機能の充実

《想定される取り組み》

- 1) *ソーシャルネットワークを活用した交流サイトの開設
- 2) アーティストバンク(アーティスト登録制度)の創設 (5)-②-3)を含む
- 3) 【再掲(1)-②-3)】鴨江別館を活用したアートセンター機能の充実
- 4) 【再掲(1)-②-4)】廃工場や空きビル等既存施設のリノベーションやコンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり
- 5) クリエイティブ*マイスター制度(育成登録制度)の創設
- 6) *中間支援団体の育成

⑤アーティスト・クリエイターの活動に触れる機会の拡大

《想定される取り組み》

- 1) 学術研究機関によるまちなかでの活動展開
- 2) 世界的なアーティストによる講座の開催
- 3) 【再掲(2)-③-4)】アーティストバンク(アーティスト登録制度)を活用した学校・地域活動への人材派遣
- 4) 【再掲(1)-②-2)】アーティスト・イン・レジデンス事業の実施
- 5) 【再掲(1)-②-3)】鴨江別館を活用したアートセンター機能の充実
- 6) 【再掲(1)-②-4)】廃工場や空きビル等既存施設のリノベーションやコンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり

⑥創造性をはぐくむ教育の推進

《想定される取り組み》

- 1) 子どもたちの国際感覚を高める取り組みの実施
- 2) 子どもの創造性・才能を伸ばす教育の実施
- 3) 【再掲(2)-②-5)】学術研究機関における担い手育成の実施

(3) 魅力ある地域資源の活用

①ものづくりを活かしたまちづくり

《想定される取り組み》

- 1) 伝統産業の技術や経験を有する人材の活用
- 2) ものづくり技術と歴史を紹介する産業観光の展開
- 3) *グローバル人材を活かした産業の振興
- 4) 【再掲(2)-⑥-2)】子どもの創造性・才能を伸ばす教育
- 5) 【再掲(1)-②-4)】廃工場や空きビル等既存施設のリノベーションやコンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり

②音楽を活かしたまちづくり

《想定される取り組み》

- 1) ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野への加盟
- 2) 【再掲(1)-①-3】国際規模の音楽祭の開催(浜松国際ピアノコンクール、静岡国際オペラコンクール等の開催)
- 3) *浜松市アクトシティ音楽院事業の展開
- 4) 楽器産業史における技術や歴史の発信
- 5) 【再掲(1)-①-2】ストリートイベントの開催(やらまいかミュージックフェスティバル、プロムナードコンサート等)
- 6) 【再掲(2)-⑥-2】子どもの創造性・才能を伸ばす教育
- 7) 【再掲(2)-⑤-2】世界的なアーティストによる講座の開催

③多様性を活かしたまちづくり

《想定される取り組み》

- 1) 外国人市民との協働によるまちづくり(*多文化共生センター、*外国人学習支援センターの運営、外国人市民共生審議会の開催等)
- 2) 多様性を活かした交流の促進と文化の発信
- 3) 多文化共生をテーマにした国内外の都市との連携
- 4) 【再掲(3)-①-3】グローバル人材を活かした産業の振興

④歴史・伝統文化を活かしたまちづくり

《想定される取り組み》

- 1) 地域固有の芸能・祭事の継承
- 2) 歴史を感じる都市景観の形成や自然風景の維持
- 3) *フィルムコミッションの推進

(4)「浜松のものづくり」を原点とした創造産業の創出

①浜松型モデルの構築

《想定される取り組み》

- 1) クリエイター(デザインなど)のネットワークの形成(*クリエイターズネットワーク構想実行委員会の設置・運営、*クリエイターズミーティング、*クリエイターズカフェの開催)
- 2) *ITコンテンツ産業や*電子音楽産業の振興

②起業支援、中小企業とのマッチング

《想定される取り組み》

- 1) 起業や産業化を支援するコーディネーターの配置
- 2) 専門的な知識や技術を有する人材の活用
- 3) 【再掲(2)-④-2)】アーティストバンク(アーティスト登録制度)の創設
- 4) 【再掲(1)-②-4)】廃工場や空きビル等既存施設のリノベーションやコンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり

(5) 創造都市ネットワークを軸とした発信・交流・連携

①世界における発信強化と交流促進

《想定される取り組み》

- 1) 【再掲(3)-②-1)】ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野への加盟
- 2) 【再掲(3)-③-3)】多文化共生をテーマにした国内外の都市との連携
- 3) 【再掲(3)-②-4)】楽器産業史における技術や歴史の発信

②国内における発信強化と交流促進

《想定される取り組み》

- 1) 国内の創造都市ネットワークを通じた交流・連携(*創造都市ネットワーク日本、*創造都市ネットワーク会議等)
- 2) 創造都市を推進する都市との政策連携(*浜松市・札幌市音楽文化都市交流宣言等)
- 3) アーティストとの交流・連携(知と文化の交流事業)
- 4) 学術研究機関や既存組織との連携、ネットワークの活用
- 5) 【再掲(2)-④-2)】アーティストバンク(アーティスト登録制度)の創設
- 6) 【再掲(1)-②-3)】鴨江別館を活用したアートセンター機能の充実
- 7) 【再掲(1)-②-4)】廃工場や空きビル等既存施設のリノベーションやコンバージョンによる活動拠点整備の仕組みづくり
- 8) 【再掲(2)-④-1)】ソーシャルネットワークを活用した交流サイトの開設
- 9) 【再掲(3)-④-3)】フィルムコミッションの推進

【参考】

～ユネスコ創造都市ネットワーク～

異なる文化の相互理解を目指すユネスコは、文化的な産業の振興により都市の活性化を目指す世界の創造都市の連携と交流を促進するため、2004年に創造都市ネットワークを創設しました。

このネットワークには、「文学」、「映画」、「音楽」、「クラフト & フォークアート」、「デザイン」、「メディアアート」、「ガストロノミー（食文化）」の7つのテーマが設定されています。

創造都市ネットワーク認定都市（7分野 34都市/2012年10月現在） 認定日順

「文学」	エジンバラ(イギリス)、メルボルン(オーストラリア)、アイオワ(アメリカ)、ダブリン(アイルランド)、レイキャビク(アイスランド)、ノリッチ(イギリス)
「映画」	ブラッドフォード(イギリス)、シドニー(オーストラリア)
「音楽」	セビリア(スペイン)、ポローニャ(イタリア)、グラスゴー(イギリス)、ゲント(ベルギー)、ボゴタ(コロンビア)
「クラフト & フォークアート」	サンタフェ(アメリカ)、アスワン(エジプト)、金沢(日本)、利川(韓国)、杭州(中国)
「デザイン」	ブエノスアイレス(アルゼンチン)、ベルリン(ドイツ)、モントリオール(カナダ)、神戸(日本)、名古屋(日本)、深セン(中国)、上海(中国)、ソウル(韓国)、サンテティエンヌ(フランス)、グラーツ(オーストリア)、北京(中国)
「メディアアート」	リヨン(フランス)
「ガストロノミー（食文化）」	ポパヤン(コロンビア)、成都(中国)、エステルズンド(スウェーデン)、全州(韓国)

浜松市が加盟する意義

浜松市は創造都市の世界的ネットワークのもとで、音楽がもたらすヒューマニズムのネットワークで世界を包み、多様な文化を認め合う国際社会の実現に貢献することを目指します。

ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟は、日本やアジアをはじめ世界の都市に対して、以下の点で有意義であると考えられます。

1. 欧州、南米に続き、アジアで初めての音楽都市の誕生は、ユネスコが提唱する文化的多様性の実現につながります。
2. 地域資源と人材を活かした産業都市から創造都市への転換を通じて、グローバル化とIT社会に対応した未来の音楽文化を世界の各都市に発信することができます。
3. 世界各地域の課題である多文化共生の取り組みに対して、在住外国人の多い都市である浜松市が取り組んできた外国人との交流・共生の実績やノウハウを発信することができます。

10 推進体制

本方針は、庁内の関連課をはじめ、創造的な活動に取り組む団体・組織と連携して策定を進めてきました。

今後の推進に当たっても、本方針を踏まえ、市民、市民活動団体、経済界、大学、行政などの多様な担い手が協力・連携して取り組みます。

浜松市、浜松商工会議所、*静岡文化芸術大学、*浜松市文化振興財団などにより構成する「浜松創造都市推進会議」において、施策の方向性や具体的取り組みを検討し、創造都市・浜松の実現を図ります。

また、浜松に拠点を構える*一般社団法人浜松創造都市協議会をはじめとした既存の創造都市推進団体、浜松市市民協働センターと連携し、多様なジャンルの市民活動団体との交流ネットワークの構築を進めます。

このような推進体制により、創造都市に対する市民の意識や関心を高めていくとともに、ものづくりや音楽、多文化共生などを活かした創造性あふれる取り組みを積極的に展開していきます。

1 1 用語解説

ア行

アーツカウンシル

日本語では芸術評議会などと訳され、芸術文化に対する助成や審査・評価等を行い、行政と一定の距離を保ちながら文化政策の執行を担う専門機関。

アーティスト

芸術家、演奏家など文化的創作活動に携わる人全般を指す。創造都市においては、表現活動・創作活動によって人を感動させ、都市の活力を引き出す役割を担う。

アーティスト・イン・レジデンス事業

芸術家を一定期間、特定の土地・場所に招聘し、創作活動に専念できる環境を提供するプログラムの総称。

ITコンテンツ産業

各種メディアを通じて提供されるアニメ、漫画、映画、ゲームシナリオなどの情報(コンテンツ)を制作する事業全般、産業。

アイデンティティ

他と区分される個性、独自性。また、そのような独自性を持った他ならぬ存在であるという自信。

異業種連携

異なる業種がコミュニケーションを図ったり、提携したり協力すること。日本では一般的にコラボレーションと呼ばれることも多い。

イノベーション

新しい市場や資源の開拓、新機軸の導入など、新たな技術やアイデアの取り入れや、これまでの取り組みに対し手を加えて改変すること。

一般社団法人浜松創造都市協議会

2009年度静岡文化芸術大学の研究費を用いた「浜松市における創造拠点形成のための社会実験」研究プロジェクトが発端。同年7月に産学官連携(浜松商工会議所、浜松市、浜松市文化振興財団)により浜松創造都市協議会を設立。

カ行

外国人学習支援センター

平成22年1月開設。外国人の大人から子どもまでを対象とした総合的な学習支援の拠点として、日本語教室、ボランティア養成講座、多文化体験講座、ポルトガル語講座等を実施している。

学術研究機関

大学や高等専門学校、試験研究機関、研究交流施設、人材育成機関などを指す。

鴨江別館

昭和初期の近代建築物。現在は、アートと地域を結ぶ創造的な活動の場として活用されており、空間を活かした展示(インスタレーション)やワークショップ、カフェなど様々なアートシーンをつくる実験工房の役割を担っている。平成25年11月に施設名称を「浜松市鴨江アートセンター」と変更する予定。

クリエイター

デザイナーや構成作家などの創造的な仕事をしている人で、産業活動の中で創造性を発揮し、付加価値の高い商品・サービスを創出する人を指す。「○○クリエイター」は「○○を作る人」のことを言う。

クリエイターズネットワーク構想実行委員会

地元産業の高付加価値化に向け、クリエイターの活躍できる環境づくりと中小企業への啓発事業等を行う活動主体。平成25年度設置。母体はクリエイターズネットワーク構想検討会議(平成24年度)。

クリエイターズミーティング、クリエイターズカフェ

デザイナーやアーティストなど若いクリエイターが交流し、自らを表現できる場や会合。クリエイターの作品発表や企業とのマッチングなどの機会の創出にも寄与する。

グローバル人材

明確な定義は存在しないが、「グローバル人材育成委員会」(事務局:経済産業省及び文部科学省)報告書によれば、「グローバル人材に共通して求められるのは『社会人基礎力』に加え、『外国語でのコミュニケーション能力』『異文化理解・活用力』とされている。

コーディネート、コーディネーター

調整。調整役。様々なプロジェクトの遂行に当たり、中立的な立場に立って、参画主体の調整や総合的な進行を行うほか、人と人、活動と活動を結び付ける役割を担う。

コンバージョン

改装、転換。建築・不動産業界では、建物の用途変換、転用を指す。欧米では、歴史的価値のある城郭などを博物館やホテルに、倉庫やオフィスを住宅に転用する例などが多い。

サ行

サロン

応接間や談話室など。文化人相互の交流の場を称して「〇〇サロン」と呼ぶことがある。

静岡国際オペラコンクール

静岡県ゆかりのプリマドンナ、三浦環を称え、没後 50 年に当たる平成 8 年から 3 年毎に開催。声楽家における若手で有能な人材の発掘や「音楽のまち・浜松」の世界への発信を目的とするコンクール。

静岡文化芸術大学

静岡県と浜松市、産業界による公設民営の新しい大学として、平成 12 年 4 月開学。文化政策学部(国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科)とデザイン学部(生産造形学科、メディア造形学科、空間造形学科)の 2 学部 6 学科と大学院(文化政策研究科、デザイン研究科)を置く。平成 22 年度から公立大学法人に移行。

自然共生社会

人間と地球に暮らす全ての生き物が共に暮らし、将来にわたり自然の恵みを得られる社会。

市民ディレクター

創造的活動の企画や運営、人材の発掘・登用、関連団体間の仲介などを担うことのできる市民。

循環型社会

ごみを減らし、限りある資源を繰り返し利用していく社会。

市民協働

市民、市民活動団体、事業者及び市が、互いの相違を認識し、それぞれの特性を活かしながら、共通の課題の解決や目的を達成するため、多角的、多元的に取り組むこと。

ソーシャルネットワーク

趣味、職業、居住地域などを同じくする個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービス。SNS(Social Networking Service)。

創造都市ネットワーク会議

文化庁主催による、創造都市に関する都市間の情報交流や相互支援を目的とする国内会議。文化庁の文化芸術創造都市推進事業の一環。

創造都市ネットワーク日本(CCNJ)

創造都市の取り組みを推進する地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内及び世界の創造都市間の連携・交流を促進するための組織。創造都市に関する情報・知見・経験交流のハブ機能を担う。平成 25 年 1 月設立。自治体 22、NPO 法人 5 の計 27 団体により発足した。

創造産業

広告、放送、デザイン、報道、映画、美術、イラストレーション、ゲーム開発、手芸、音楽産業、舞台芸術、出版、ソフトウェア開発など、個人の創造性や技能、才能に由来し、また知的財産権の開発を通じて、富と雇用を創出しつる産業。

タ行

多文化共生

総務省の多文化共生の推進に関する研究会報告書(平成 18 年 3 月)では、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。」と定義されている。

多文化共生センター

平成 20 年 7 月開設。誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを進めるために、多言語による生活相談、自治会等との連携事業、国際理解教育の推進、人材育成などを実施している。

地域力向上事業

地域の課題を解決したり、地域資源を活用したりすることで、住みよい地域社会の実現を目指す事業で、法人・団体の主体的な取り組みを支援する。市事業。

中間支援団体

行政と地域の間にならって様々な活動を支援する組織・団体のこと。多くは NPO への支援などを主目的として発足しているケースが多い。

電子音楽産業

電子音楽に必要な電子楽器の生産のほか、電子音の変形・編集を行ったり、各種メディアを通じて電子音楽を発信する事業全般、産業。電子音楽とは、シンセサイザーなど電子回路によって作り出された音を素材とする音楽。

ハ行

浜松国際ピアノコンクール

平成 3 年、市制 80 周年を記念してスタートし、以後 3 年ごとに開催。世界の優秀な若手ピアニストの発掘や浜松の音楽を全国に発信することを目的としている。

浜松市アクトシティ音楽院事業

音楽界に活躍する人材の育成を図るとともに、市民文化の向上と地域社会の活性化に向けて、音楽文化に関する生涯学習の機会と情報の提供を目的とした各種事業を展開している。

浜松市・札幌市音楽文化都市交流宣言

音楽文化都市である浜松市と札幌市が、音楽文化の交流と相互理解を促進する取り組み。音楽事業や人材の交流、情報発信の連携等を通じて、互いの音楽文化を振興する。平成 21 年に宣言。

浜松市総合計画

浜松市の基本理念や将来像を示した計画。現在の第 2 次浜松市総合計画は平成 23 年 3 月に策定されたもので、計画期間は平成 23 年度～平成 26 年度。

浜松市文化振興財団

優れた芸術文化の提供、交流、創造、発信を行うことや市民・地域の芸術文化活動の支援を通して市民文化の振興、地域社会の活性化に資することを目的とする公益法人。平成 17 年にアクトシティ浜松運営財団と浜松市文化協会の統合により設立。

光・電子技術関連産業

オプトロニクス(光学と電子工学)技術の活用により、既存技術・製品の革新的高度化と新産業の創出を実現しうる、あらゆる産業の基盤技術となる産業。

ヒューマンイズム

非常に広い範囲の思想傾向、世界観を指している言葉で、人間性の尊重、人間らしさの尊重を基調とする主張。

フィルムコミッション

自然・施設・まちなみ・史跡など豊かな映像資源を紹介し、映画・テレビ番組・CM 等の撮影場所誘致や撮影支援を行うこと。

付加価値

生産過程で新たに加えられた価値。元々のものより高い価値なものとなることについて「価値が付加される」という意味合いで、付加価値と呼ばれる。

プロムナードコンサート

プロムナードは散歩や遊歩場の意味で、まちなかで立ったまま聞くような大衆的な軽い音楽の演奏会を指す。毎週土曜日午後、JR 浜松駅北口広場を主会場として開催される中高生やアマチュアバンドが出演するコンサート。昭和 59 年から継続実施。

文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)

文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興や地域活性化に戦略的に取り組み、地域から世界に向かって文化を発信する自治体を表彰する制度。

マ行

マイスター

巨匠や名人。マイスター制度は一定の技能・技術を有する人材に資格を与える制度。

みんなのはままつ創造プロジェクト

創造都市の実現に向け、市民活動団体や民間企業が企画して実施する、創造的・独創的な取り組みを支援するプロジェクト。市事業。

ヤ行

やらまいか精神

“やらまいか”は遠州(浜松)地方の方言で“やってみよう”“やろうじゃないか”の意味を持ち、何事にも前向きに取り組む進取の気性を表す。

やらまいかミュージックフェスティバル

市民有志の実行委員会によって開催されるストリート音楽イベント。平成 19 年より毎年開催。音楽ジャンル、国籍、プロアマを問わないミュージシャンが浜松に集まり、様々なステージでライブを繰り広げる。

ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)

教育・科学・文化を通じて国際協力を促進し、世界の平和と安全に貢献することを目的とする組織。1946 年設立。

リ行

リノベーション

既存の建物を大規模に改修し、用途や機能を変更して性能を向上させたり、価値を高めたりすること。

「創造都市・浜松」推進のための基本方針

浜松市企画調整部企画課

平成 25 年 3 月策定